



2学期もまだまだ続く探究活動！

◆創造科学科2期生(1-8)の活動◆

9/19 創造基礎B 前期最終発表会

本校同窓会館ゆ〜かり館において、創造基礎B前期中間発表会「～“輝ける未来創造都市”神戸の実現に向けて、高校生力を発揮しよう！～」を行いました。ゲストとして、長田区役所まちづくり推進部まちづくり課課長 田中丈之氏、同協働推進担当係長 半田将隆氏、同事業推進担当係長 長岡善典氏、NPO 法人 JAE 教育コーディネーター 角野綾子氏、神戸大学学生ボランティア支援室 東末真紀氏の5名をお招きし、質問や講評等を行っていただきました。以下は各班の発表テーマを含めたプログラムです。

司会 前半：岸本・橋谷

後半：大澤・大森

タイムキーパー 前半：佐藤 後半：近藤

1. 挨拶

2. 発表

3班「NAGATA おさかな天国プロジェクト」

2班「どんどん広げろ！

長田商店街イイとこプロジェクト」

8班「やさしい日本語で外国人にやさしいまちへ」

6班「人と人をつなぐインスタスポット」

1班「駒ヶ林アクアリウム

～人を空き地とアートでつなげる～」

7班「中学生も高校生もみんなおいでよ 鉄人化祭り」

5班「#ぼっ^{かける}×タコ #拡散希望」

4班「Happy Life Happy 長田 for シニア」

3. 講評



約3ヶ月半の間に行ったフィールドワークと調べ学習から、今後実施する実践活動について、どう取り組むのかといった内容を発表しました。質疑応答やゲストからの講評を受け、それぞれの班の課題を発見することができました。今後それらを踏まえ、よりよい研究を進めようと意気込んでいます。

後期(自然科学分野)スタート！

9/26 創造基礎B

「神大院生によるプレゼンテーション」

同窓会館ゆ〜かり館において、課題研究の授業「神大院生によるプレゼンテーション」が行われました。前期の創造基礎Bは社会科学分野の探究活動を行ってきましたが、後期は自然科学分野のテーマについて、神戸大学大学院人間発達環境学研究科の大学院生とともに共同研究を行います。今回、同大学院研究科 教授 伊藤真之氏と大学院生8名に来ていただき、ご自身の研究課題や、今後生徒と共に取り組む予定の研究内容について、プレゼンテーションを行っていただきました。



以下は、研究（あるいは今回の発表の）テーマです。

- | | |
|----------------------------------|--------|
| ・植物生態学・数理生物学 | (博士1年) |
| ・植物の繁殖戦略と進化 | (修士1年) |
| ・耕作放棄地への管理再導入による植物再生実験 | (修士1年) |
| ・環境 DNA 分析手法を用いた生態学調査 | (修士2年) |
| ・星の観測 | (修士1年) |
| ・振動分光法を用いた高分子材料（コラーゲン）の熱変化挙動の解析 | (修士1年) |
| ・宇宙線観測気球実験 | (修士1年) |
| ・月周回衛星「かぐや」が観測したデータを用いた月の放射線環境調査 | (修士2年) |

大学院生の方々からの発表の後、どのテーマに沿って研究を進めていくのかを各班で考えました。大学院生に質問をしながら、班員の考えをすりあわせて、研究したいテーマを絞り込みました。

9/8 RRE 「The Great Barrier Reef」

2学期の RRE ではテーマを「環境問題」とし、学期末にパワーポイントを用いたプレゼンテーションと、外国人留学生との交流会を行います。その導入として、本校 ALT が母国オーストラリアの世界自然遺産「The Great Barrier Reef」について、プレゼンテーションを行いました。その後、プレゼンテーションの内容を日本語で要約し、感想を英語で書きました。



《生徒の感想》

The most interesting and surprising information for me was about starfish. I didn't know that starfish eats coral and the Giant Trion Snail eats the starfish. I thought starfish was cute, but increasing starfish is not good. I want people not to catch the snail. I was able to have fun listening to the presentation.

9/29 RRE 「社会課題の解決と市民の役割

～公害の事例から考える～

同窓会館ゆ〜かり館において、あおぞら財団研究員の栗本知子氏による「社会課題の解決と市民の役割 ～公害の事例から考える～」というテーマの講義とワークショップが行われました。今回は、2学期の RRE のテーマである「環境問題」について、市民としてどのように関わることか考えるために、日本語での活動となりました。初めに栗本氏から西淀川公害について講義をして頂きました。続いて、グループに分かれ、市役所職員、被害住民、工場経営者、町医者、工場従業員、ジャーナリストで役割分担し、ロールプレイを通して環境汚染問題について合意形成をめざすプログラムを実施しました。最後に役割ごとにグループをつくり、同じ状況におかれた人同士で改善策は考えられないか話し合いました。



《生徒の感想》

「工場が原因だ」というはっきりとした証拠はなくても、他に原因がないので、工場に何らかの原因があると考えるのが妥当なのではないかと思う。でも一人で声を上げ続けても効果は得られないので、横のつながり（被害者同士、賛同意見）をつくっていくことが大事だと思う。 [市役所職員役]

僕は被害住民の立場だったけど、医者や工場の立場の人の意見を聞いて、立場が変わると「こうであってほしい」という思いも変わってくるし、その意見をまとめて合意につなげていくことは難しいことだなと思った。それでもお互いの意見を尊重し、解決策を見つけることが大切だと思う。

[被害住民役]

社会科学分野探究活動 現状報告

9/5 FW : アグロガーデン訪問

アグロガーデン神戸駒ヶ林店において、「創り出そう花と緑にあふれる長田」をテーマに研究している社会科学分野6班が、設置を考えているインスタグラム向けの撮影スポットのアイテム作成について、技術面に関する具体的な相談をしました。相合傘を花で作成することについては、土台となる部分を木材で作成するなど安定した形のもの望ましいですが、その制作が比較的難しいことと、そこへ生花を植えるとなるとかなりの重量になるなど、自分たちの手で制作するとなると、課題が多いことがわかりました。土を使用しない、花の部分を少なくする、造花にするなど、再考の余地が大きくあることがわかりました。再度グループで話し合い、方向性を考え直すこととしました。

《生徒の感想》

今日のアグロガーデンへのフィールドワークは、寸法などの構想を立てた上で臨んだが、いざインスタスポットの制作を実行するとなると、費用のことや資材のことなど、さまざまなことに工夫を凝らさなければいけないことがわかった。例えば、スポットを作る際の外枠組みをどうするのかについて、造型の方法、固定する方法など、たくさんあるものの難しく、これからどのように仕上がっていくのか不安でもある。実際やってみるということはそれなりに難しいこともあるということを感じた。目標の達成にはかなり時間がかかりそうだが、様々な方の意見やアドバイスをもとに自分たちでベストな方法を導き出し、やるべきことはしっかり果たすことができるように努めていきたいと思った。

9/5・7 FW : 駒ヶ林まちあるき

地下鉄駒ヶ林駅周辺において、「Happy Life Happy 長田 for シニア」をテーマに研究している社会科学分野4班が、実地調査を行いました。この調査をもとに、9月19日の校内発表会で駒ヶ林をシニアにおすすめするポイントを発表します。

《生徒の感想》

今回のフィールドワークは、駒ヶ林で「テイクアウトができるお店」を探すことを目的として活動した。大正筋商店街と本町筋商店街で主にお店を探してみたのだが、それ通して思ったことは、「テイクアウトができる」店は少ないということだ。また、テイクアウトができる店の大半は大型チェーン店だった。今回の活動でテイクアウトができるお店より、居酒屋や八百屋、精肉店などの「昭和の感じ」が残っていて、お年寄りの方のウケがよいお店の方が多いことがわかった。また、歴史ある丸五市場の方にお話を聞くことができた。その方によると、駒ヶ林・新長田付近は、昭和の雰囲気は未だに残っている町で、懐かしいと思われる方が多く、40代以上は子育てが一段落したら、この町で過ごしたいと思っている方が多いそうだ。また、丸五市場はいろいろなイベントをお店同士で話し合って開催するなど、近所同士での繋がりがとても強くて、そういった部分でも昭和の雰囲気が残っていると感じた。最後に、今回の活動でいろいろな方にお話を聞いてお世話になったから、その方々への感謝もしっかり持ちつつ、もっと長田区のことを知って、高齢者の方に住みやすい町だ、ということさらさら知らせていきたいと思う。



9/19 FW : r3訪問

長田区六間道商店街のレンタルスペースr3において、「人と人をつなぐインスタスポット」をテーマに研究している社会科学分野6班が、r3代表の合田昌宏氏からお話を伺いました。設置を考えているインスタグラム向けの撮影スポットについての説明をし、r3への設置を打診しました。制作や設置に関しての課題が多いことも合わせて相談しました。合田氏から、技術的課題がない状態を目指すと、どうしても楽しいものや興味深いものからかけ離れてしまう可能性が高いということをお聞きし、原点にたちもどり、自分たちが楽しいと思えるアイデアをまず出すことから再考することとしました。高校生らしい発想が最も重要であり、技術的な課題は、そ

こから考えることとしました。もちかえって、グループで話し合い、10月初旬に各自の独創的なアイデアをもって、再度訪問することとしました。



《生徒の感想》

今回のフィールドワークは、インスタポット制作に向けて、六間道商店街レンタルスペース『r3』の方と具体的なプランについて話をすることができた。デザインについては、“若者を惹き付けるデザイン”ということで、技術的なことにとらわれず、自分の好きなものなどから自由な発想で様々なアイデアを膨らませるとよいというアドバイスをいただいた。さらに、実際にこういうことならできそうという具体的な考えを深めることもでき、とても有意義なフィールドワークとなった。また、『r3』の店先にちょうど移動販売で来られていたパン屋さんが「遅くまでお疲れ様！」と声を掛け、パンを持ってきて下さった。地元の方との温かい交流に触れ、励まされたような嬉しい気持ちになった。こうした地元の方との出会いや繋がりを大切にしながら、今後の活動を頑張っていきたいと強く思った。

9/21 FW：角野邸訪問

角野邸において、「駒ヶ林アクアリウム～人を空き地とアートでつなげる～」をテーマに研究している社会科学分野1班が、空き地にアートで水族館をつくる行程で地域の人々の交流をはかることを目的としたワークショップ開催に向けて具体的な日程や準備物などを、NPO法人芸法の小國陽祐氏と自治会の方々とで話し合いました。開催は10月下旬に決まり、これから着々と準備を進めていく予定です。

9/24 FW：商店街での聞き取り調査について

本校創造科学科準備室において、「どんどん広げろ！長田商店街イイトコプロジェクト」をテーマに研究している社会科学分野2班が、長田区のまちづくりをサポートしているまちづくり株式会社コー・プランの吉川健一郎氏と今後行う実践活動について話し合いました。2班は今後、商店街の店を訪問し

て聞き取り調査を行い、店ごとの課題や解決策を提案し、それと同時に商店街の食べ歩きマップを高校生向けに作成していく予定です。



《生徒の感想》

今回は今後の予定を主に決めていきました。前回の話し合いを踏まえ、私たちなりに考えた商店街の調査項目について、いくつかアドバイスをいただきました。私たちが考えていた項目は、直感的に分かるものから、お店の方と話をしていく中で気づくものもあるとのことだったので、実際に28日に、試しにエンゼルさんで調査を行わせていただくことになりました。お店の方々は、若者視点の意見を必要しているというアドバイスも受け、当初考えていた2回調査を行い、2回目に商店街のことをよく知っている古くからのお客様と一緒に調査を行うことをやめ、その代わりに後からお店の方々にアンケートをしていただくことになりました。また、食べ歩きマップも、どの商品を取り上げるか、またその商品をお店の人はどう考えているかななどを直接お話を聞くことで、マップにうまく反映させることができるということになりました。今回の話し合いで、自分たちはまだ詰めが甘いと思いました。大まかにこうしたいということは決まっていますが、自分たちでは細かいところまで決められていたつもりでいて、実際に吉川さんに質問された時に、すぐに答えられなかったり、そこまで考えが及んでいなかった場面が多々ありました。今回質問されたことを参考に、これでもかというほどしっかり内容が詰まったものを次のフィールドワークの時までに作り上げておこうと思います。

9/27 FW：長田駒ヶ林漁業体験ツアー

長田区の駒ヶ林漁業会館において、「NAGATA おさかな天国プロジェクト」をテーマに研究している社会科学分野3班が、「第3回親子で楽しめる！長田駒ヶ林漁業体験ツアー」の実行委員会に参加しました。長田区役所からまちづくり課の田中課長と長岡氏、小林氏、駒ヶ林漁業会の三浦氏、長田港の尻池氏と一緒に次回イベントの内容について検討しま

した。また、校内発表会の内容を報告し、キャラクター作成やクイズラリー、漁師めしの実施などを提案しました。

《生徒の感想》

今日の漁業体験ツアー第1回会議で、私たちが一番優先すべきことはク



イズスタンプラリーに決まった。どのような質問をするのか、用紙の形式などを、次に区役所を訪問する10月中旬までに決めておく。優先順位はキャラクター「コマガー」についてだ。今出している案はタコだが、駒ヶ林ではタコは売り出していない。よって駒ヶ林で売り出せそうなチヌ、シラス、イカナゴ、エビ、ハリイカなどさまざまな生物で一回キャラクターを作ってみることになった。そして、2番目は漁師飯についてだ。今のところチヌのアラ汁とタコ飯が候補にあがっているが、タコ飯は小学校の給食ででることがあるので、私たちはチヌのアラ汁がいいのではないかと考える。材料や費用のことがあることから、早めにメニューを決めて、漁業会や婦人会の方々に協力を頼みに行く。また、同じ班員がフィールドワークに参加しているの、あまり参加していない班員も参加できるよう調整する。

9/28 FW：店舗評価シートの検討

長田神社前商店街の洋菓子店エンゼルにおいて、「どんどん広げろ！長田商店街イとこプロジェクト」をテーマに研究している社会科学分野2班が、長田神社前商店街の店舗の課題と解決策提案のために作成した店舗評価シートの有効性の検討およびインタビューの練習を行いました。今回の調査を通じた反省を生かし、本番の調査に向け評価シートの内容を改善していく予定です。

《生徒の感想》

今回行ったフィールドワークの目的は、10月24日から行う、お店の見学に向けて試しにやってみたものでした。なので、今回のことから本番への改善点がいくつか見つかりました。まず、調査項目についてですが、初め私たちは5段階で評価し数値化するつもりでしたが、実際お店を見て5段階で評価するのは予想以上に困難なことでした。その

ため、5段階で評価することをやめ、コメントとして残していく方向で行くことにしました。また、項目自体も、お店を見ただけでは分かりにくかったり、当てはまりにくいものもいくつかあったので削ったり足りたりしながら本番までに納得のいくものに作り上げたいと思います。今回の事前調査で分かったことを反映しさらなる高みを目指して行こうと思います。

9/30 FW：角野邸付近にてピラ配り

長田区駒ヶ林の角野邸付近の防波堤で行われたアートイベントにおいて、「駒ヶ林アクアリウム～人を空き地と



アートでつなげる～」をテーマに研究している1班が参加し、10月下旬開催予定のワークショップのヒントを得る機会にしました。最後に宣伝としてピラを配り、多くの地域の方々に参加してもらえよう呼びかけました。

◆創造科学科1期生(2-8)の活動◆

9/6 創造応用IL 講義

「世界を見せてくれない日本のメディア」

同窓会館ゆ〜かり館において、大阪大学大学院国際公共政策研究科 准教授 ヴァージル・ホーキンス氏をお招きし、「世界を見せてくれない日本のメディア」というテーマで講義をしていただきました。講義の前半では、日本における国際報道の割合や地域的分配、記事が与えるイメージ、紛争報道が多い地域などについてお話を頂き、国際報道のあり方について考えさせられました。後半では「国際報道はなぜ必要なのか？」という問いについてグループで意見を出し合い、クラスで発表をしました。「グローバル社会だから」「他国と歩調を合わせるため」「他国に依存している日本は常に他国の情勢を知らなければならないから」など様々な意見が出ました。ホーキンス氏からは様々なフィードバックや意見を頂き、生徒たちにとって深い学びの時間となりました。



《生徒の感想》

日本での国際報道の割合がとても低いことに驚きました。普段 LINE NEWS で世界の情報見ることがあるけど、それは世界で起きていることの本当に一部でしかないだろうなと思いました。印象に残った言葉は、「紛争の規模とその紛争が報道される規模が全然違うのはおかしい」という言葉です。今のメディアでは本当に知るべき情報が、自分たちにより直接関係があるように見える情報に圧迫されてしまっているのだと感じました。国際報道がなぜ必要なのかの議論の時に、あまり関係がなさそうな国のことも知らないといけないのかなと考えてしまったけど実際は関係のあることがたくさんあると知り国際報道はやっぱり大切だと思いました。

【創造応用 I S 探究活動(1~3回目)】

理系 28名は、創造応用 I S の時間において探究活動を始めました。探究活動の科目は、前年度と同様の「数学・化学・物理・生物・都市工学」の5科目となっています。生徒たちは、1学期の創造応用 I S の時間に受けた講義や実験・実習をもとに、科目を一つ選び、より専門性の高い探究活動を行っていくことになります。

【数学】活動 2 回目より

本校学科準備室において、数学を選択した4名を対象に、神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授 稲葉 太一氏にお越しいただき、前回の発表を踏まえた上でテーマを決める作業を継続して行いました。ゼミ形式に慣れたこともあり、また、専門家の観点からのアドバイスも豊富にいただき、これからどのようなことを研究していくのかの方向性がよりはっきりと定まってきました。後日、稲葉先生からそれぞれが考えているテーマについて、研究としてどれくらい発展性があるかのアドバイスを添えたレポートを送付していただきました。現在、興味深い

テーマとして記憶・競馬・理想的な登山などが挙げられています。



[写真 左：数学 右：化学]

【化学】活動 2 回目より

本校化学教室において、化学を選択した生徒6名を対象に、化学2回目の活動を実施しました。昨年先輩が実践した泥電池を実際に作成し、新たな課題の発見に向けての実験を行いました。最初に、基本であるダニエル電池を作成しましたが、昨年と違い抵抗なしでも起電力を測定でき、その理由を全員で討議することから始まりました。用いた溶液や極板、塩橋の影響を考えましたが、難しい課題で、いきなり研究の難しさを経験することになりました。その後、泥電池を作成しましたが、昨年と同じような結果は得られず、次回にもう少し時間をかけて結果を考察することになりました。

【物理】活動 2 回目より

物理を選択した生徒8名は、大阪大学大学院理学研究科物理系総合研究棟を訪問し、担当していただく大阪大学大学院理学研究科教授 下田 正氏と共に、顔合わせののち、前回生徒で議論したテーマ案について議論を行いました。まず、生徒が挙げたテーマに関して説明を行い、それに対して下田先生からアドバイス・意見をいただきながら10のテーマに対して簡単な話し合いを実施しました。その後、各テーマに対して物理的な観点を交えながら、高校生の課題研究として取り組めそうなものなのか、どのような発展性が考えられるのかといった議論を通しながら、テーマを絞っていきました。この日の話し合いの中で「砂時計」に関する研究、「ダイラタント流体」に関する研究の2つが最終候補として残り、4名ずつに分かれて、今後の具体的な研究の方針に関して検討を行い、各グループ間で共有しました。



[写真 左：物理 右：生物]

【生物】活動2回目より

神戸大学大学院洲崎研究室を訪問し、生物を選択した生徒5名を対象に、神戸大学大学院理学研究科准教授 洲崎敏伸氏による探究活動のガイダンスを行っていただきました。細胞内共生と生物の進化について、単細胞緑藻と原生生物や、トキソプラズマと脊椎動物の例を挙げての説明を受けた後、今年度の研究材料であるミドリヒドラの細胞構造について電子顕微鏡による観察を見学しました。今後は、ミドリヒドラの刺胞を観察する場合、刺胞の放出をどのような方法で行うかを考えてくることになりました。

【都市工学】活動3回目より

都市工学を選択した生徒5名は、大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー専攻澤木研究室を訪問しました。最初に、大学院生（修士2年）の安野谷氏の指導により、SD法による印象評価実験の体験をさせていただきました。1枚の写真につき、1分間で18項目の形容詞対による直感的な印象を評価するという作業でしたが、研究テーマが決まったあと、この作業の被験者を選定して作業を依頼しなければならないことがわかり、生徒たちはデータ収集の方法の実感を持ったようでした。その後、澤木先生が来られ、全体でテーマの設定に向けて建設的な議論が交わされました。ディスカッションの結果、大きく2人・3人の2つのグループに分かれ、2人のグループは「景観印象と色彩・絵画の印象との比較」、3人のグループは「景観印象と音楽の印象との比較」に取り組むということになりました。また、最終的な考察結果の集約の形として、印象評価実験から得られた示唆



に基づいた、「印象のよい景観やインテリアデザイン等のモデルプラン」を提示しようという提案が出されました。

グローバルリサーチ活動報告

◆グローバルリサーチⅡ(普通科2年)◆

9/13 FW「布亀株式会社訪問」

「置き薬ビジネス」を研究している9班が西宮市に本社がある布亀株式会社を訪問しました。置き薬ビジネスのお話をお聞きした後、こちらから配置する薬の話や営業所における人員配置等、ビジネスが成り立つために重要な要素に関する質問に答えていただきました。実際の薬箱や営業の方が持ち運んでいる薬等もを見せていただきました。高校生ビジネスグランプリのビジネスプランシート作成に向けて大変有意義なフィールドワークとなりました。

《生徒の感想》



初めての企業訪問で最初は緊張していたが、だんだんと聞きたいことを伺えて、とても有意義な時間となった。話を聞けば聞く程、実際にビジネスとして行うにはいかに課題が多いのか分かり、持続可能な体制で利益を生み続ける難しさを痛感した。ミャンマーでは村単位に薬箱を設置するので日本とは違った配置薬の制度を考えなくてはならない等、問題は山積みだが一方で、対面で直接売り込めるというメリットがあることも知れた。私は配置薬しか販売を考えていなかったが、このメリットを活かしてミャンマーの人々のニーズにあった商品も売り出すことで利益を拡大したい。今回知れたことを考慮したうえで、より実現可能なビジネスプラン作成に向けて努めたい。

9/14 実験実習「実験準備」

本校化学教室において、「機能性植物の評価」をテーマに研究をしている2班を対象に、兵庫県立大学大学院環境人間学研究科教授 村上明氏をお招きし、実験の試料準備を行いました。今回準備した試料とベトナム研修中の実習で作製した試料を用いて、兵庫県立大学にて実験を行う予定となっています。



9/22 FW「神戸国際コミュニティセンター訪問」

神戸国際コミュニティセンター(KICC)において、「災害弱者」をテーマに研究している1班が、同交流事業担当の中野真紀氏にお話を伺いました。神戸国際コミュニティセンターでは、日本語文化学習をサポートするなど、電話や同行による相談・通訳・翻訳業務や、神戸国際交流フェアのような国際交流事業を行っています。神戸市における外国人サポートの現状や、「やさしい日本語ミニブック」、外国人のための生活ガイド「Good Living Guide」、「防災カード」についてお話をいただきました。

《生徒の感想》

外国人といっても色々な人がいて、日本語レベルはまちまちであり、その中でも全く使えない人は1%ほどだと聞き、思い



のほか少なかったことに驚いた。KICCさんは市、区役所や裁判所などへの通訳はできるが(病院などの)民間には入ることができない、そのためにファシルがいるがお金はかかるのでどちらもお金に余裕のある人しか行きにくいと思った。上にも書いた通り、外国人のほとんどは日本語が少しは分かるのでその人たちはきっとやさしい日本語を使うのもあまり苦労しないと思う。だが多文化共生は「みんなが暮らしやすく」が大事なので、のこり1%の人へどう対応していくか、また観光客への対応はどうするのかというところが課題であると思う。

◆グローバルリサーチ I (普通科1年)◆ 9/11 GR I・RRE

「英語によるプレゼンテーションの技法」

同窓会館ゆ〜かり館において、普通科グローバルリサーチ I 受講者(1年)33名と創造科学科2期生(1年)40名を対象に、神戸市外国語大学教授である野村和宏氏をお招きし講義を行って頂きました。内容はプレゼンテーションの技法やスピーチをする上での注意点などについて、オールイングリッシュで講義をして頂きました。また、講義の合間に即興スピーチの実践やグループワークも行いました。生徒たちは講義を聞き、グループワークで意見を交流させたり、実践活動を通してプレゼンやスピーチのコツを学ぶことができました。



《生徒の感想》

I enjoyed listening to today's lecture by Mr. Nomura, and I have two impressive things. First, it is important that making eye contact with the audience when I make a speech or a presentation. If I don't do that, audiences don't get interested in my speech. I learned speaking without looking a memo is very important. Second, I learned how to make a power point which people understand easily. I have made it a few times but several points which is told by him are easier to understand. So when I use the power point next time, I want to make a great speech by using the skills.

他にも様々な活動に参加しました!

9/7 神戸市長との対談「長田のこれから」

ふたば学舎講堂において、創造科学科2期生(1年)15名が長田区区民まちづくり会議主催「市長とともに考えようみんなの大好きな長田」に参加しました。この公開シンポジウムには、創造基礎Bの地域課題研究でお世話になっている方々が事例報告

をされました。これからの実践活動のヒントとなる市民の取り組みを知ることができました。



《生徒の感想》

「市長とともに考えようみんなの大好きな長田」の話に出てきたアートをより身近なものにし、街中に芸術が溢れている長田にしていくには、住民の活動への参加が必要不可欠だと思った。そして、それを呼びかけていく方法にも工夫が必要である。もう一つ、課題は「あそび」で楽しく解決するという事例で、その後も「あそび」を続けられるようなものにする事から、課題解決後のプラスアルファとしてそういうことも必要なんだと学ぶことができた。また、創造基礎Bで取り組んでいることにも関わるような事例を聞くことができるいい機会となった。今日、市長や活動に取り組んでいる方々から聞いた話で創造基礎に活かせる部分は積極的に取り入れていきたい。

9/10 FW「神戸ベトナム人会」参加

二葉地域福祉センターにおいて、グローバルリサーチⅢ受講生（3年）1名とグローバルリサーチⅡ受講生（2年）1名が、神戸ベトナム人会が実施するベトナム語教室と日本語教室を見学しました。実施の背景や運営について様々なお話を聞くことができました。また、本校OBで日本ベトナム友好協会の方にも駆けつけていただき、長田におけるベトナム人コミュニティが置かれている現状や課題についてお話をさせていただきました。3年生は論文の最終的な検証ができ、2年生は課題設定に大いにプラスになりました。



《生徒の感想》

見学させてもらったベトナム語教室は、生徒がとても元気に授業を受けている様子がわかった。その

教室をベトナム人が自発的に開いているのはいいことだと思うけれど、親子間のコミュニケーションをとるために大事な勉強であるのに、授業があまり身になっていない感じがあった。また、専門の方の話を聞いて、自分たちが難民や多文化共生について研究することは大事なことだとわかった。ただその研究は、多くの課題や問題があり、いろんな情報を知り、きちんとした態度で研究に向き合っていくことが大事だと思った。

9/24 FW「親子ベトナム教室」参加

二葉地域福祉センターにおいて、グローバルリサーチⅡ受講生（2年）の3名と創造科学科1期生（2年）1名が、親子ベトナム教室に参加しました。今回は2週間前と違い、在住ベトナム人の方がベトナム語であいさつや自己紹介について子供たちに授業を行っていました。保護者の方も3名、日本語を勉強されていて、日本人の先生のご厚意で、本校生に様々なお話をしてくださりました。神戸在住のベトナム人定住者が抱える課題を確認することができ、今後の研究について大きなプラスになりました。終了後、新長田地区の再開発地域を見学し、空き店舗の多さに驚きました。



《生徒の感想》

私たちは、親子ベトナム教室へフィールドワークに行った。今回のフィールドワークの中でも一番楽しく、一番衝撃を受けることが多かった。中でも印象に残っていることは、話す言葉についてだ。親と子どもで、話す言葉が違うことに衝撃を受けた。親は日本語が話せないためにベトナム語だけで話し、子どもは逆に日本語だけで話していた。だが、理解できない言葉を聞いているのにも関わらずそれで会話が成立しているようであって、とても不思議であった。私たちが提案しているベトナム人との交流を行ううえで一番の問題が言葉の壁だと感じた。この壁をどう乗り越えていくかをこれから様々な案を出ししっかりと考えていきたい。今回はとても良い経験となった。）

8/20・9/3 「ワンワールドフェスティバル

for Youth」第2回・第3回実行委員会

関西 NGO 協議会事務所において、グローバルリサーチⅡ受講生（2年）の2名が、「ワンワールド・フェスティバル for Youth 2017」の第2回および第3回実行委員会に参加しました。各校で考えた実行委員企画の内容について発表し、担当を決めました。本校は「フィリピンの教育問題」について講義プログラムを担当します。

《生徒の感想》

2回目実行委員では、まず担当プログラムの決定を行いました。私達は寺岡くんの研究テーマでもある発展途上国の教育をテーマに講演をすることになりました。その後開会式と広報担当について決めました。私は開会式を担当します。三回目実行委員ではまず講演依頼のメールをする時に大切なビジネスメールのマナーを学びました。そして、本年度のポスターについて意見交換をしました。これはボランティアリーダーも一緒に意見を出し合いました。協議事項としては各校担当プログラムの概要を共有しました。



9/28 イギリス研修事後学習

本校ゆ〜かり館において、イギリス研修に参加した生徒（2年）10名が研修旅行の振り返りをし、来年度のイギリス研修参加希望生徒（1年）25名とともに座談会を行いました。また、研修中にお世話になった英国国際教育研究所の坂出義子さんとテレビ電話を通じて、研修の振り返りレポートを英語で発表しました。坂出さんからは英語で講評を頂き、イギリス研修を振り返る良い機会となりました。

